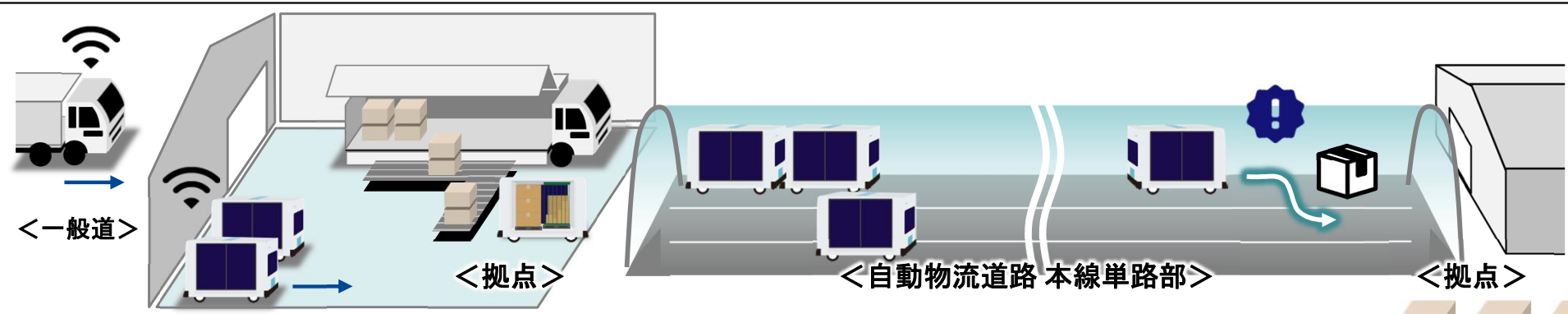


実証実験の実施概要等について

令和8年度自動物流道路の社会実装に向けた実証実験 概要

- 目的:「令和8年度自動物流道路の社会実装に向けた実証実験」では、昨年度と同様に既存の技術及び既存施設を活用しつつ、自動、無人で荷物を運ぶという自動物流道路のコンセプトについて、複数台の搬送機器を用いての走行性能及び自動運転設備等の簡素化可能性を検証し、自動物流道路の実装に向けた技術的課題の検証および運用に必要な条件整理等を行う。
- 公募期間:7月22日(水)～8月21日(金)を予定
- 実験場所:国土技術政策総合研究所の試験走路又は成田国際空港施設内
- 実験期間:令和8年10月～12月を予定(別途調整)

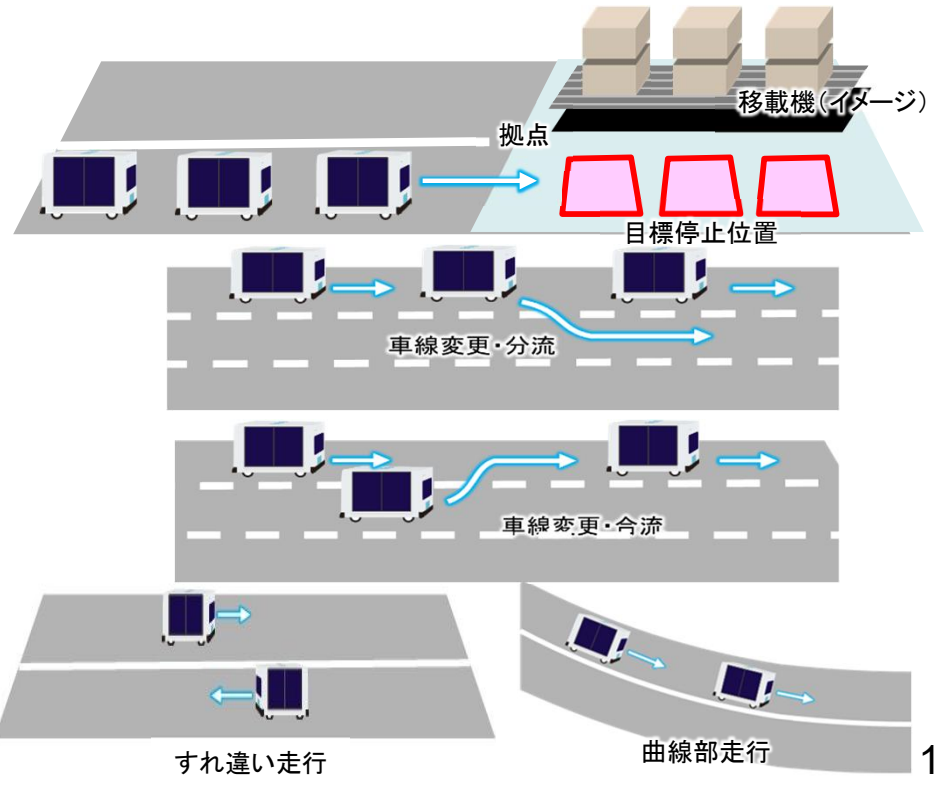


【テーマ1】拠点における荷役<拠点>

・机上検討、シミュレーションにより、車両、搬送機器の出入量に応じた複数荷役機器等による処理能力(時間)を検証し、拠点必要面積等を検証する。

【テーマ2】複数台の搬送機器の自動走行<本線・拠点>

- (1) 現行の搬送機器の走行性能の検証
 - ・複数の搬送機器(3台以上)による自動走行(曲線部走行等)を行い、必要な幅員等の検証を行う。また、車線変更、分流、合流、すれ違い等の実証により、バッファリングの実現可能性を検証する。その際、積載貨物への影響、異常検知、危機回避時の走行性能を確認する。
- (2) 自動運転設備等の簡素化の検証
 - ・専用空間を念頭とした自動運転設備等の簡素化可能性の検証を行うとともに、インフラ協調の必要性を検証する。
- (3) その他
 - ・机上検討にて、路側インフラ、搬送機器、拠点、車両間のシステム連携を検証する。
 - ・実験中の電力消費量、通信環境、運行管理手法等のデータ取得する。



役割分担・費用分担

○実証実験における役割分担・費用分担は以下のとおり。

項目			施行区分	調達	運用	費用負担	備考
共通	実験計画(全体)		国	-	-	事務局	
	実験計画(各シナリオの実施詳細)		事業者	-	-	事業者	
	実証実験の実施・運営またはシミュレーション実施にかかる直接人件費・旅費		事業者	-	-	事務局	
	実験全体オペレーション、管理		国	-	-	事務局	実験実施主体は国とする
	実験でのデータ収集機器、計器、計測システム開発等		事業者	-	-	事業者	本実験のために計器及び計測システム等を開発する場合は事業者負担
	実験結果とりまとめ、報告書作成		事業者	-	-	事務局	事務局が準備する「結果とりまとめ様式」・「報告書」・「報告書概要」の作成
	実験結果の分析・評価		国	-	-	事務局	実験計画で整理した検証項目の結果整理
	広報、周知活動		国/事業者	-	-	事務局/事業者	
現場検証	安全計画	実験時	事業者	-	-	事業者	
		視察等開催時	国	-	-	事務局	
	保険	実験時	事業者	-	-	事業者	実験自体に対する傷害保険等
		実験協力者	国	-	-	事務局	実験協力者(荷物、パレット等の準備に協力していただく企業)の準備する資機材および人等
		視察等開催時	国	-	-	事務局	視察等参加者に対する傷害保険
	インフラ部分の準備	実験場所	国	-	-	事務局	
		共用で使用する機材・設備・仮設物	国	事務局	事業者	事務局	机、いす、トイレ等
		電源設備	国	-	-	事務局	
		各実験に使用する追加機材・設備	事業者	事業者	事業者	事業者	実験実施において個別に追加が必要な仮設インフラ設備は事業者負担
		フォークリフト	国	事務局	事業者	事務局	
		フォークリフト オペレーター	事業者	事業者	事業者	事務局	フォークリフトのオペレーター調達および実験中の荷役は事業者で実施
		搬送荷物	国	事務局	事業者	事務局	
	実証実験に使用する搬送機器	搬送機器(リースを想定)	事業者	-	-	事務局	輸送費を含む
		搬送機器の開発	事業者	-	-	事業者	本実験のために搬送機器を開発する場合は事業者負担
		自動走行に必要な設定・調整	事業者	-	-	事務局	
		自動走行に必要な機能の開発	事業者	-	-	事業者	本実験のために自動走行に必要な機能を開発する場合は事業者負担
	実験稼働時の必要な電力		国	-	-	事務局	
		計画・準備	国	-	-	事務局	
		説明用機材・その他備品	国	-	-	事務局	
		視察、見学対応	国	-	-	事務局/事業者	
		視察者輸送用バス	国	-	-	事務局	
シミュレーションによる検証	シミュレーション(使用料)		事業者	-	-	事務局	
	シミュレーション 開発		事業者	-	-	事業者	本実験のためにシミュレーションを開発する場合は事業者負担

実証実験スケジュール概要

○実証実験のスケジュールについては以下のとおり想定。

想定時期	フェーズ	申請者	国土交通省
7月22日(水)～ 8月21日(金)	公募	 申請書の提出	
		～申請書の審査～	
9月上旬	採択結果発表	採択結果の連絡	
9月中旬～	実験準備	 実施計画書の提出	
		～実証実験の実施～	
10月～12月中旬	実験後	 報告書・データ等の提出	

実証実験への協力依頼について

■ご依頼事項

○実証実験の実施にあたり、搬送機器に積載するための積み荷や物品をご提供いただくことが可能でしたら、以下のご連絡先まで、ご連絡をお願いいたします。【期限：7/31(金)中】

■連絡先(事務局ML)

○autoflow_road_consortium@hido.or.jp

■連絡内容

○企業名/担当者名

○ご提供可能な物品の概要(荷姿、個数、時期など)※

※具体的な荷姿・数量・時期などの詳細条件は、今後の実験計画に応じて、今後ご相談させていただく予定

【(参考) 令和7年度自動物流道路の社会実装に向けた実証実験 | 搬送機器に荷物を積載した様子】



標準仕様パレット※(単一の荷姿)



ロールボックス型パレット(かご車・段ボール)



標準仕様パレット※(複数の荷姿)

※平面サイズ:1,100mm×1,100mm

※写真:第11回 自動物流道路に関する検討会 配付資料 資料4より抜粋

https://www.mlit.go.jp/road/ir/ir-council/buturyu_douro/pdf11/05.pdf